

平成17年度 第16回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成17年10月25日(火) 13:30~16:00

場 所 北方キャンパス本館 E701会議室

出席者 <委員> 矢田学長、棚次副学長、国武副学長、羽田野事務局長、乗口外国語学部長、近藤文学部長、齋藤経済学部長、小野法学部長、高橋国際環境工学部長、谷村社会システム研究科長、迎全学教務主事、山崎(克)産業社会研究所長、山崎(勇)国際教育交流センター所長

配布資料

- 1-1 北九州市立大学改革プラン(案)
- 1-1-2 入試から就職まで一貫した教育システムの体系化等
- 1-2 北九州市立大学改革プラン(案)に対する意見
- 2 基盤教育センター専任教員選考について
- 3 教員採用選考報告等
- 4 北九州市立大学遺伝子組換え実験安全管理規程
- 5 緊急時の対応手順
- 6 セクシュアル・ハラスメント防止研修計画(案)
- 7 特任教員・特任研究員制度等

(冒頭、第15回教育研究審議会議事録(案)について確認)

第1号 中期計画に関する各種委員会の報告について

*各学部・各種委員会からの意見を踏まえ、資料1-1のとおり北九州市立大学改革プラン(案)を修正し提案。

- 産研での産業社会関係資料の集積については、人員・保管スペース等で困難な面がある。
- この点については、将来にわたる方向性を定めたものとして取り組んでいただきたい。
- 学生部長、全学教務主事を副学長に加え、副学長5名体制としては如何か。
- 副学長3名体制ならば、学長サポート体制として有効に機能するが、それ以上となると学部長との違いや、責任の曖昧さ、意見調整の困難等の弊害を生じる可能生があると考える。
- 科学研究費等の増額については今年度、説明会を実施する等新たな取組を既に初めているが、他にどのような検討をすべきと考えているのか。
- さらなる申請者の増加や学部間の不均衡をなくしていくこと等、現況を一層改善していく方策を検討願いたい。
- 全学教務主事は基盤教育センター設置後も必要か。また、学生部長はキャリア支援センター設置後も必要か。
- 同センター設置後、実態がどうなるかを踏まえ必要により再検討していきたい。
- 入試事務体制の充実が必要である。また、本学入試問題の検証が行われていないことが入試上最大の問題。AO入試については、理念の実現のコスト、高校教員の評価、他大学状況を考えると本学に導入する意義があるか疑問である。

- 職員人事配置のあり方については必要性を認識している。今後検討していきたい。
入試センターの専任教員については、従来型の研究教員ではなく、予備校・高校教諭の経験者なども含めて幅広く入試制度の専門家を考えている。
AO入試については、国公立大学として公平性の確保が求められること、他方で、学力以外の要素も入試において判断すべきという点などを総合的に勘案して検討していく。
- 夜間主コースを地域貢献という観点から総合的に検討・企画できるか疑問である。大学・学部の基幹的機能、業務として検討すべきではないか。また、プランに示されている内容をどのように具体的に実施していくか、実施のため教員が積極的に動いていく仕組みがむしろ問題である。
- まずは各種委員会での報告を精査し、今後取り組むべき重要施策を示すという観点でこのプランをとりまとめた。教員の積極的な参画については皆様の協力をいただいて実施していきたい。
- 図書館についてレファレンス機能の充実をプランに入れるべきではないか。
- その方向で検討したい。
- 教育・研究の項目中「全ての研究者の研究教育活動情報の公開」は既に実施済である。
- 提案のプラン（案）から削除する。
- 国際交流の項目中「市民向け日本語教育のあり方」については、対象者の日本語レベルに応じた講座等を検討する考えである。
- 提案のプラン（案）を修正したい。

【議長】提案を修正の上、決定してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 （仮称）基盤教育センターの教員選考について

※資料2のとおり（仮称）基盤教育センター専任教員の学内公募を提案。

- 選考委員会選考委員が応募しても良いのか。
- かまわない。
- 選考委員会委員に各学部長が入る必要はないか。
- 全学的立場からの検討等が生じた場合には、教育研究審議会にて調整したい。
- 希望者が予定数に達しない場合、再公募するのか。
- 再公募手続は困難だと思う。どうしても必要な人材が確保できない場合は、設置準備委員会から各教員に働きかけをすることになる。
- 同センターに異動する教員を検討する際には、各学部の教員数と学生数のバランスについても考慮すべきだと思う。
- 最終的な学部間調整については、教育研究審議会にて行いたい。

【議長】提案どおり実施してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第3号 北九州市立大学教員の採用について

* 法学部4月採用人事（民事訴訟法）について、選考委員会から、採用候補者（小池順一氏、現在西南女学院大学助教授）の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき、採用候補者の採用について提案

（採用候補者について多様な意見が出され、慎重な審議がなされた。）

【議長】 候補者を採用してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

* 法学部の4月採用人事について、選考委員会から、候補者となる者が現れなかったため、担当科目、対象者の範囲を広げて改めて公募する旨を提案

【議長】 提案について承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

* 4月採用人事について、国際環境工学部からの申請に基づき、1名の退職を承認し、その補充となる採用について提案。

（提案の承認の後、国際環境工学部の18年4月新規採用について選考委員会を設置）

【議長】 提案について承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第4号 北九州市立大学遺伝子組換え実験安全管理規程について

* 資料4のとおり北九州市立大学遺伝子組換え実験安全管理規程（案）を提案

【議長】 提案どおり決定してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第5号 大学の危機管理について

* 資料5のとおり、緊急時の対応手順（案）を提案。

● 同手順を各教室に設置する際には離れたところからも目立つようフォーマット・配色等に配慮いただきたい。

【議長】 提案どおり決定してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第6号 セクシュアル・ハラスメント防止研修計画について

*資料6のとおり同防止研修計画案を提案。

【議長】提案どおり決定してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第7号 特任教員について

*資料7のとおり特任教員・特任研究員制度を提案。

- 現在の客員教員制度との関係はどうなるのか。非常勤の特任教員と通常非常勤講師とはどう違うのか。また、年齢制限は設けないのか。職員就業規則では原則65歳定年となっているが、それとの関係はどうなるのか。
- 仕事の内容に応じ、個々に契約を結ぶ形になるのではないか。具体的ケースを想定して、規則等を整備していきたい。制度の内容次第では別個に就業規則を作成する可能性がある。年齢のほか、教授会への参加や、教員研究費、研究室等について取扱いを検討する必要がある。

【議長】提案について、各学部等から意見・質問を提出いただき、教育研究審議会にて意見を取りまとめることとしてよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

報告

次回の審議会を11月8日(火)に開催する予定である旨、事務局から説明があった。